

目的志向の道路整備の推進

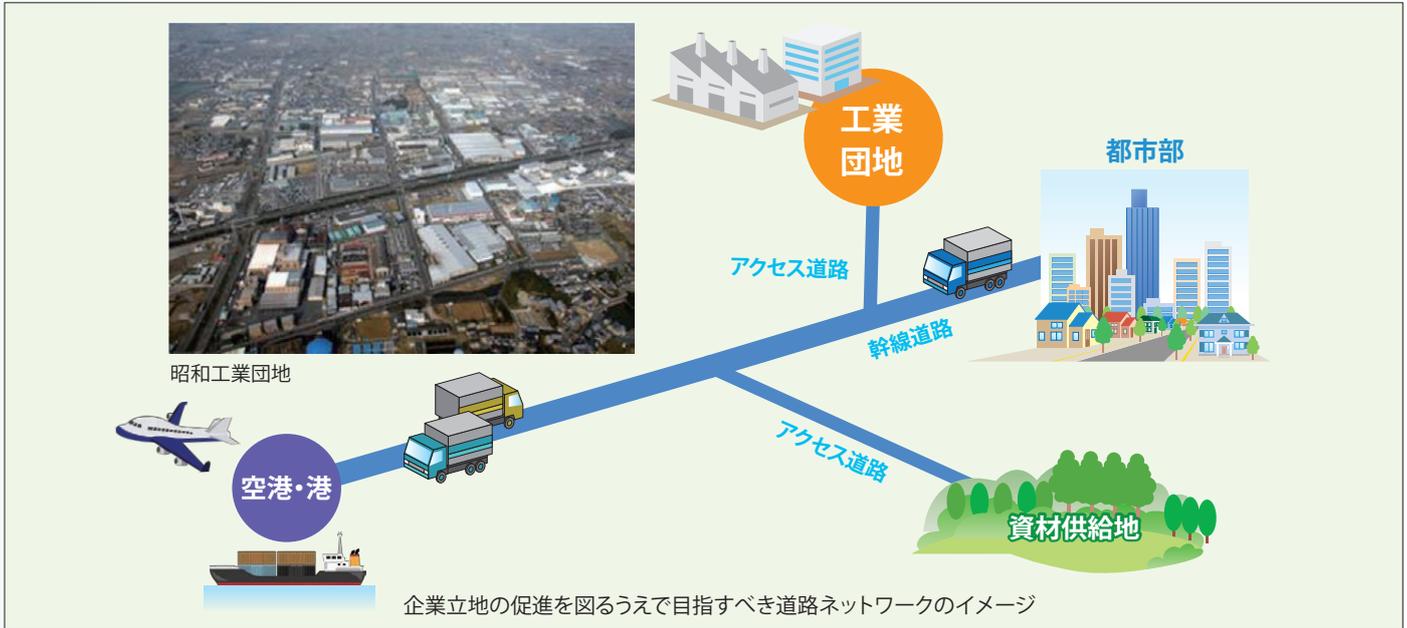
ここからは、骨格幹線道路ネットワークの形成と併せて4つの目的(企業立地の支援、観光振興、生活利便の向上、安全・安心の確保)に応じた道路整備について紹介します。



企業立地を支援する道路整備の推進

本県の政策課題である企業立地を促進するため、企業立地環境の改善に資する道路整備を進めます。

■ 骨格幹線道路ネットワークから産業集積地への良好なアクセス道路を確保します

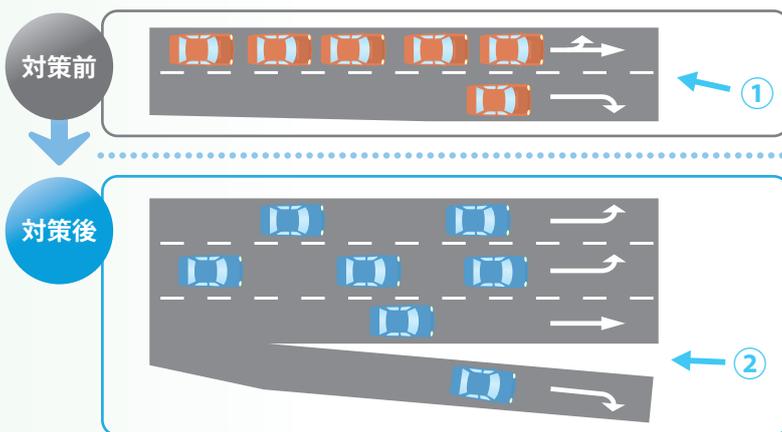


■ 通勤・業務での移動が円滑にできるようにします

● 奈良県みんなで作る渋滞解消プラン(平成22年)による取組を進めています。

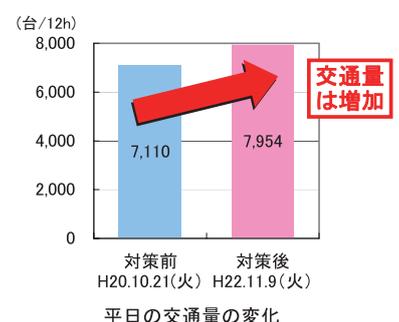
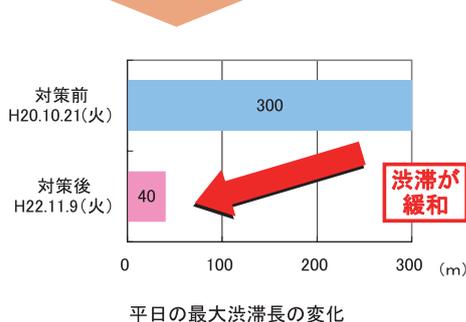
速効対策の概要 (渋滞対策の事例(新堂交差点))

・ 東行き左折レーンの新設(2車線)、右折レーンの移設(平成22年3月対策完了)



対策の効果

・ 速攻対策を実施した結果、国道24号新堂交差点(東行き)では交通量の増加にかかわらず、最大渋滞長は300mから40mへと大幅に減少し、渋滞が緩和された。



奈良県が誇る歴史的遺産や自然環境を活かした観光振興のための道づくりについて、紹介します。



観光振興



観光振興に資する道路整備の推進

全国屈指の歴史的遺産や豊かな自然環境など、奈良県が誇る地域資源を活かした観光振興の促進を図ります。

©NARA pref.

I. 整備すべき道路のあり方

骨格幹線道路ネットワークの形成

目的志向の道路整備の推進

整備に当たっての条件・配慮事項

II. 道路整備の進め方

観光地へのアクセスを強化します

●公共交通によるアクセスの強化を図ります。

- ・ぐるっとバスを継続的に運行します
- ・春秋の観光シーズンにぐるっとバスを活用したパークアンドバスライドを実施します



ぐるっとバス
(土日祝日と観光シーズン・
イベント開催時に運行)



●観光地への良好なアクセス道路を確保します。



観光地へのアクセス道路の整備(法隆寺線(法隆寺))

観光地間の周遊を促進します

●ソフト施策の組み合わせにより既存の道路ネットワークを最大限に活用した観光周遊を促進します。



吉野路上北山:ポスターチラシによる観光情報の発信

●自転車ならではの新たな観光スタイルを創出します。



自転車利用ネットワークの整備

観光地内の回遊を促進します

●観光客が分かりやすい観光案内の整備を進めます。



地域内で仕様が統一された案内看板(近鉄奈良駅前)



外国語表記のある案内板

用語説明

ぐるっとバス

鉄道駅(近鉄奈良駅・JR奈良駅)から奈良公園や平城宮跡などの奈良中心市街地内の観光施設を結ぶ周遊バス。土日祝を中心に通年運行。

パークアンドバスライド

市街地等での交通混雑を抑制するため、市街地周辺部に駐車場を設け、自動車からバスへの乗り継ぎを図るシステム。

目的志向の道路整備の推進



生活利便の向上に 資する道路整備の推進

自動車交通だけでなく、公共交通、徒歩、自転車など多様な移動手段の通行環境の充実を図ります。

高齢化の進展も見据えた生活利便の向上を目的とした道づくりについて、取組を紹介いたします。なお、この基本計画では、自動車だけでなく、公共交通や徒歩、自転車交通を支える道づくりも進めていきます。



©NARA.pref

■公共交通の利便性の向上を図ります

- 路線バスの利便性の向上を図ります。



バス停周辺の整備事例(大和八木駅)

- 乗継ぎ、乗換え利便性の向上を図ります。



鉄道駅のバリアフリー化の整備事例(大和八木駅)

- 地域公共交通の維持・確保施策との連携を図ります。

県民の移動ニーズに応じた交通サービスの実現に向け、地域公共交通の維持・確保に資する取組を検討・実施します。

■購買・飲食等の利便性の向上を図ります

- 鉄道駅を核とした魅力あるまちづくりを支える歩行者回遊環境の整備、渋滞対策、駐車場の整備を行います。



鉄道駅と駅前商業施設との連絡通路の整備事例(近鉄大和高田駅)

■健康まちづくりとあわせた道路整備を進めます

- 大規模病院等へのアクセス道路の整備を推進します。



新奈良県総合医療センター 完成イメージ

県民生活の根幹となる安全・安心に着目した道づくりについて、取組を紹介いたします。



安全安心

安全安心を支える道路整備の推進

県民の生活を守り、経済活動を支える取組を進めます。

©NARA pref.

I. 整備すべき道路のあり方

骨格幹線道路ネットワークの形成

目的志向の道路整備の推進

整備に当たっての条件配慮事項

II. 道路整備の進め方

■災害に強い道路整備を進めます

●南部地域における防災機能の向上、及び地域活性化を図るとともに、紀伊半島全体にとっての道路ネットワークの代替性及び多重性を確保し、近い将来発生が危惧される南海トラフ地震等大規模災害への対応力強化を図るため、紀伊半島アンカールートの早期整備に取り組みます。

●災害時の重要な役割を果たす役場へのアクセス道路の改良に取り組みます。

●ハード・ソフト両面から効率的かつ効果的な道路防災対策を推進します。



南部・東部地域のすれ違い困難箇所



■老朽化に対応した適切な維持管理を進めます

●奈良県内12,700km(うち市町村道10,500km)の道路の維持管理を効率的かつ効果的に実現するため戦略的なストックマネジメントを展開し、予防保全型維持管理を推進します。

●「奈良モデル」の一環として、市町村で管理する橋梁やトンネルの点検や修繕業務を県が受託して実施するなど、市町村を積極的に支援します。



道路構造物の点検状況

■暮らしを支える交通安全対策を実施します

●PDCAサイクルによる効率的かつ効果的な交通安全対策を進めます。

●安全な通学路の整備を進めます。

●総合的な歩道整備を進めます。



対策事例(県道奈良精華線)

用語説明

紀伊半島アンカールート

紀伊半島の骨格となる京奈和自動車道、近畿自動車道紀勢線、それを結ぶ国道168号五條新宮道路、国道169号の形が船の碇に似ていることから、「紀伊半島アンカールート」と呼称されている。

ストックマネジメント

既存ストックの有効活用や、長寿命化を図り、ライフサイクルコストを低減するための体系的な手法。

奈良モデル

奈良県の地域に最適な行政運営の実現を目指して、県及び市町村の連携・協働を進める奈良県独自の取り組み。

整備に当たっての条件・配慮事項



風格ある景観形成と環境への配慮

- 豊富な歴史文化遺産と豊かな自然景観が一体となった歴史的風土と調和を図ります



十津川渓谷の自然環境と景観の保全に配慮した整備事例(七色高架橋)



室生寺周辺の景観に配慮した整備事例(室生路橋)



道路ストックの有効活用と効率的な整備

- 既存の道路ストックを有効に活用することにより、新設、改築から維持、修繕に渡る道路整備を効率的に行います



橋梁の定期点検状況



既設道路区域内で歩行空間を確保した事例



©NARA pref.

道路整備を進めるにあたって、
景観、効率性、使いやすさの
3つの観点に配慮しながら、
奈良県にふさわしい道づくり
を進めていきます。

使い易さ



使い易さの追求

■多様な道路ユーザーにとっての使い易さを追求します



観光地案内と道路案内標識を組み合わせた事例



電光掲示板による駐車場の案内事例(国道369号(奈良市大宮町))

■平成25年度全建賞を受賞しました!!

奈良県が、実施した「近鉄奈良駅前行基広場大屋根設置工事」が、平成25年度全建賞を受賞しました。

この事業では、「雨が降っても人が集まることができ、イベントもできる古都奈良の玄関口として、まちと駅が身近につながっていくように利用してほしい。」という思いで、近鉄奈良駅前の広場に屋根を設置しました。

屋根の設置により、周辺を含めた環境が大きく変化することから、景観審議会での審議など合意形成や景観配慮事項を検討した取組が評価されました。また、地元への積極的な情報提供及びイベント活動の実施による事業への理解を促したことも評価されました。



近鉄奈良駅前行基広場 大屋根

※全建賞とは、建設技術の活用並びに公共事業の進め方やストックの運用の工夫等により、特出した成果を得られた事業を全日本建設技術協会が表彰するものです。

Ⅱ. 道路整備の 進め方

評価の重視と「選択と集中」



評価の重視

段階に応じた評価の実施

■計画段階：都市計画の見直し

「奈良県都市計画道路の見直しガイドライン(平成22年)」に基づき、市町村と連携を図りつつ、社会経済情勢の変化に応じた都市計画道路の見直しを推進します。

■事業段階：事業評価の充実

- 事業着手後の円滑な事業進捗を確保するため、新期事業の採択時評価制度の改善を図ります。
- 事業の再評価を充実し、効率的な事業展開及び事業効果の早期発現を図ります。
- 完了した事業の評価対象を拡大し、取組の効果検証を行い、必要な見直しを行います。



選択と集中

「選択と集中」に基づく 予算マネジメント

■重要事業・重要施策への重点的投資

- 骨格幹線道路ネットワークを形成する事業や県の主要プロジェクト関連事業など、重要事業への重点的な投資を進めます。
- 渋滞対策、通学路の安全対策、老朽化対策など社会的ニーズの大きい施策への重点的な投資を進めます。
- 事業進捗上の停滞要因のない箇所に予算を傾斜的に配分するなど、進捗に応じたメリハリのある投資により、各事業の早期効果発現を図ります。

これまで(7頁～16頁)に示した道づくりを着実かつ適切に進めるため、評価方法の確立、予算マネジメントの実施、市町村等との連携、県民への説明、事業の品質向上等を徹底していきます。



©NARA pref.

用語説明

事業再評価

公共事業の効率的な執行及び実施過程の透明性を一層向上させるため、学識経験者などから構成される委員会の意見を最大限尊重し、対象事業の対応方針を決定する取り組み。奈良県では、平成10年度から「再評価システム」を導入し、『奈良県公共事業評価監視委員会』を設置している。



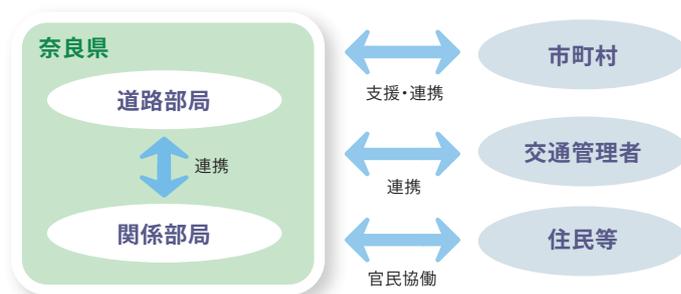
市町村等の関係機関との連携・協働

■まちづくりとしての総合性の重視

道路整備に当たっては、まちづくりとしての総合的な視点の下に、各種施設整備、土地利用、公共交通事業などが相互に連携しつつ、地域として目指す将来像を総合的に実現する観点を重視します。

■多様な主体との連携の重視

総合的なまちづくりとして、関連する取組が一体となって効果を発揮できるよう、関係部局と連携するとともに、まちづくりの主体である地域住民や市町村などと、より一層の連携・協働を図ります。



説明責任の重視

■積極的な県民コミュニケーション

事業内容についての住民説明会や、なら県政出前トーク、ホームページ等の活用により、道路政策について積極的に情報発信するとともに、県民の声の把握に努めます。

■施策の「見える化」と県民意見の反映

県民の意見を反映させるため、アンケートやパブリックコメントを活用しながら、分野別のプランやガイドラインを策定し、施策の「見える化」を進めます。

■完了宣言の推進

開通の見通しが得られた事業中の箇所について、開通時期を公表します。

契約・許認可の適正確保と品質向上

道路整備を適切に行うため、公共工事の更なる品質向上や各種手続きの透明性、公平性を確保します。また、引き続き発注・契約や許認可の適正確保及び手続きの工夫等に取り組めます。



発行 /  奈良県

奈良県 県土マネジメント部 道路建設課
〒630-8501 奈良県奈良市登大路町30番地
TEL : 0742-27-7495 FAX: 0742-26-1360
ホームページ: <http://www.pref.nara.jp/11806.htm>